ピンチヒロイン３Ｄ短編集
鮮血のヒロイン達
体験版
ざこきゃら堂

黒髪の巫女
キャラクター紹介

妹巫女

見習いの巫女

黒髪の巫女を
姉巫女と呼び慕っている

黒髪の巫女

精霊神に仕えて
癒しの魔法を得意とする

時として、その魔力で、
人々に害をなすものと、
闘うこともある

魔戦士
キャラクター紹介

魔戦士

神殿に仕え、その勅命で動く

魔戦士として鍛えられ、能力は攻撃に特化している

金の巫女と緑の娘とは、とある任務から、親しくなっている

金の髪の巫女

ある里に派遣された巫女

緑の髪の娘

ある里の自警団リーダの娘

鎮め血の巫女
キャラクター紹介

鎮め血の巫女

神殿に仕える巫女

小さな聖殿で、とある娘とすごしている

神殿より手を加えられたその血は、荒ぶる魂を鎮める

ある娘

巫女から「お嬢様」と呼ばれ、一緒に、静かにすごしている

性格は明るく、森にすむ魔法使いの娘が友達

女武闘家
キャラクター紹介

女武闘家

賞金稼ぎを生業としている

物理攻撃が強いのは、身体強化の魔法に、長けているため

神官見習い

ある事件から、女武闘家を、親しみを感じているが、本人は認めない

正義感が強いが、よく空回りをしている

半魔の娘

隠れ里で、わけありの子ども達を養っている

ある事件から、女武闘家を信頼し、恩義を感じている

黒髪の巫女　競争

それは、巫女の意地だった

若い神官とのつまらない賭け

【俺が先に、解決出来たら、つきあってよ～】

ある日、妖魔が、大地を穢し、勢力を伸ばしており、近くの里を滅ぼす一歩手前だった

――軽薄、不真面目、お調子者、ああもう、冗談じゃありません

妖魔に、最大限に近づき……

最大限の魔力を放つため、巫女を押さえていた妖魔の下僕を霧散させる

妖魔は、巫女が逃げることがあっても、攻撃するとは、予想していなかった

なぜなら、妖魔を倒しても、死をトリガーとした呪術が、相手にかかる

「…っ！」

それを、神殿の者達、とくに巫女達が、知らぬわけがない

遠くから見ると、巫女は踊っているようだった

「うぐっ！」

瘴気の筋が、巫女の身体を貫く、貫く、貫く

――…集中して！

内臓が、致命傷を追う前に、体内で、浄化させる

「…あっ！」

優先順位を低くした場所は、巫女の身体を貫通する

妖魔は、滅びた

そこには意志はない

「…はぁ…はぁ…」

――大丈夫…致命傷は…避けられた

瘴気の筋は、細く、弱く、なっていっている

「つぅ！」

それにも関わらず、巫女は、退ける魔力が残っていなかった

いつの間に、あらわな姿で、大の字に、宙に浮かされていた

まるで、瘴気の地に、残りし魔物たちに、魅せるように

――…もう…意識が……

瘴気の筋は、最後の仕事と、蔓で巫女を宙に固定させる

小型で群れをなす魔物たちが、巫女に集った

「…ふっ……」

爪で傷つけられても、微かに悲鳴しか上げられない

『それに触るな』

別の物の怪が、近づき、魔物達と争い始めた

物の怪は、巫女を独り占めせんと、近づく魔物達と闘い続け、身体が崩れる一歩手前になる

『やったぜ、巫女様！　俺達の勝利だ、ひゃっは～～い！』

――ああ、また夢なのね

なぜ、危険を諭して、全力で、彼を止めなかったのか

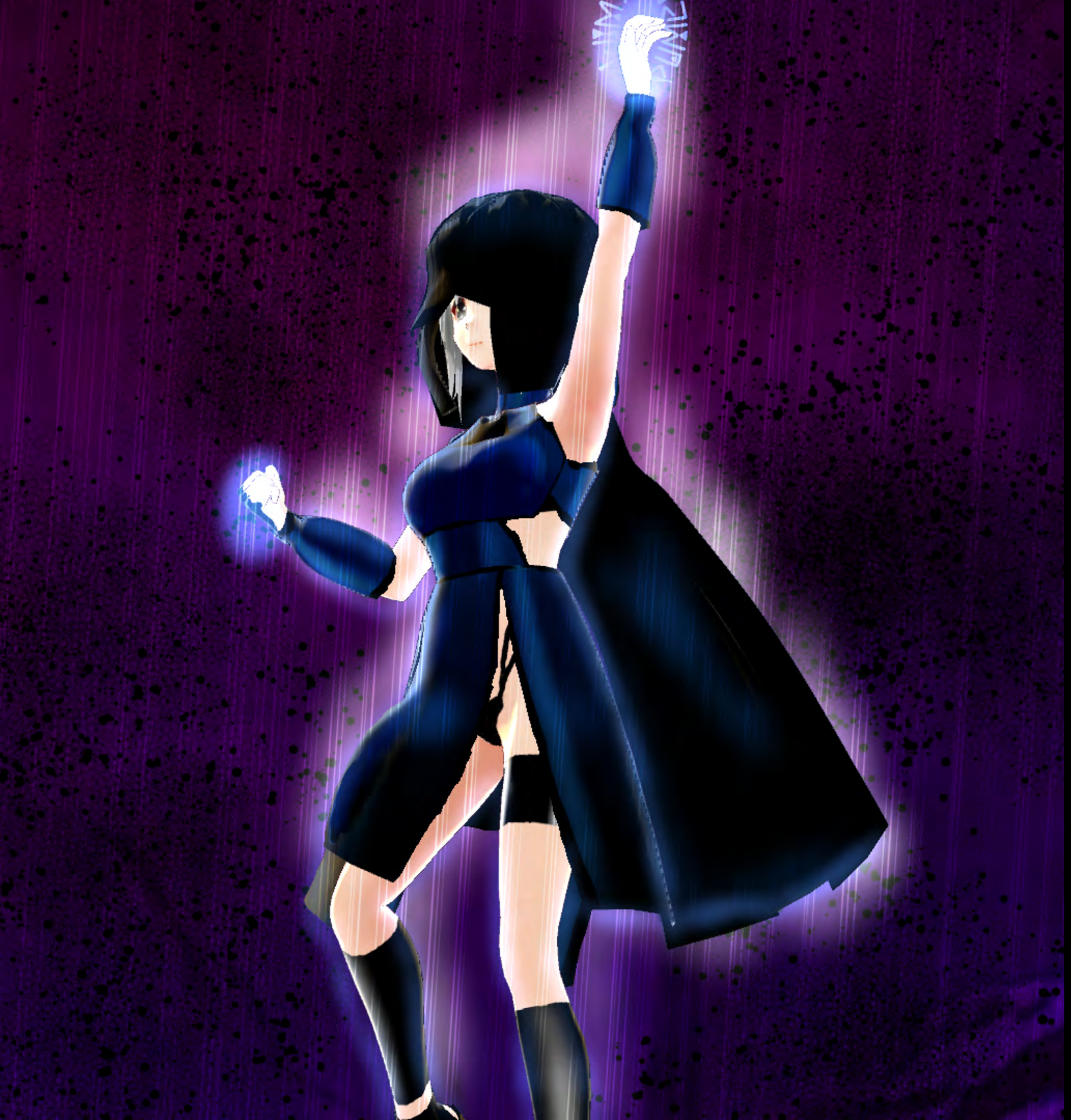
せめて一緒に行っていれば、若い神官と共に、この地を浄化できていたかもしれない

「あなたと組んでいたつもりは、ありません。賭けでは、なかったのですか」

こんな、ちょっとふざけた会話も、出来ていたかもしれない

救出された時には、大地は自然に浄化され、魔の者は一匹もいなかった

黒髪の巫女　競争　完



魔戦士 巫女救出

「げほげほ……巫女様が…倒れたままで…」

魔戦士は、聞き終わる前に、縦穴に、飛び込む

瘴気に満ちている場所から、魔法で地上に転送されたのは、落ちた里の者のみ

「巫女殿！」

金髪の巫女は、すぐに見つかった

いつも結っている髪は、ほどけている

――外傷はない、しかし…

「…ぅう…」

意識がなく、胸が上下に動いている

魔戦士は、戦闘魔法に特化して教育されていた

なので、衣をひとつ、魔力に
変換し、巫女の回復にまわす

「……！」

瘴気の闇から、殺気を感じる

――巫女殿は囮だった

里の者も巫女をおびき寄せる
囮だったかもしれない

魔戦士が飛び込まなければ、
巫女は、穴の主に喰われてい
ただろう

とっさに、魔戦士の背後に巫女の身体を移動する

回復魔法は、かけたまま

鋭い衝撃が、魔戦士の胸を襲った

胸の部分の鎧が砕ける

瘴気が穴の主に力を与え、魔戦士達の力を奪っている

――不利な場所に誘いこまれましたか…

魔戦士は、鎧を解除する

「！？　使者様！？」

巫女は、蒼い魔法陣で護らていたことに気がつく

「あ……」

身に着けている衣を魔力に変換し、巫女の守護と回復に回している

「し、使者殿！　回復しました、自分で結界をつくれます！」

魔戦士は巫女に視線を移し、結界魔法を、編み出していることを確認する

「承知しました」

浮いていた巫女の身体が、ゆっくりと地面におろされる

「では、これより、危険な魔物を処理します」

蒼い光が、魔戦士に戻り、傷だらけの身体を包み込んだ

深手を負った魔戦士を、強引に引きとめて、巫女は治癒を決行した

「…ぁあ…気持ちいい…です」

「すすす、すまねえ！　邪魔する気はなかったんだ！　ただ、心配で……ゆっくりしてってくれ」

「なにを言っているんですか、もう……」

魔戦士　巫女救出　完

鎮め血の巫女　血の魔法陣

「このしょぼい女、一人かよ」

小さな聖堂が、盗賊に闇討ちに
にあった

「その女が、巫女と神官を、全員
逃がしちまったんだよ」

――…はぁ、よかった…

正義感の強い者は、巫女と残る
と強弁したが、足手まといと説
得したのだ

「肝心なところで、一人逃げそび
れたのか、まぬけな女」

「さあ、馬につなげるぞ」

おそらく意味もなく下半身を晒される

「……んっ……」

秘部に指を、頬に刃を、つきつけられる

「ひひ、いい切れ味だろ？」

「おい、命令だ、殺すなよ」

「わかってるって、最初は、生き血で試すんだろ？　ってことだ、まぬけさん」

「っぐ！！」

盗賊たちは、馬で巫女を引きずる

深く刺された肩から、血が流れる

大地に、赤い模様を描いていく

どのくらい、引きずられていたのだろう

「この辺の色が、薄いな」

「…う…」

男が、巫女の肩の傷を、踏みつけ、新たな血で大地を濡らす

「汚ねえ、足の裏に血がついちまった、ひひ、なめさせて…」

「お、おい…」

血で描いた模様が、光っていた

光は、魔法文字にかわっていく

「こ、これは、リーダー、ぐぎゃあ！！」

盗賊の部下の断末魔が聞こえる

「うう…」

巫女は、怪しげな靄に、四肢を囚われる

――えぇ、召喚した魔物が、暴走している？

「あ、あああ、なんと我々は無力なんだ！　魑魅魍魎よ！　この世を壊せ、ははははは！」

「く…なにを…やめなさ…！？」

召喚した魔物の念力に耐えきれず、正気を失った盗賊のリーダーが、自らの首を斬った

山が崩れ、大地が揺れる

残ったのは【この世を壊せ】という命令

「契約せよ、我が血で召喚された者達よ、我に従え、我に服従せよ」

巫女は、召喚の儀を引き継ぐ

『承知、受諾、同意、許可、無駄』

思念は、隙あらば、巫女の心を壊そうとする

「ただ、我に従え」

『了解』

「この世を壊す命令は、無効とせよ」

『了解』

崩れた山は、その先にある里に向かって流れていく

「我が身体を使い、命令無効を実行せよ」

召喚された魔物は、魔力の塊となり、巫女の細い両手に集まる

『了解』

塊は、巫女に導かれ飛翔し、里を押しつぶさんと、流れていく岩土を、霧散させた

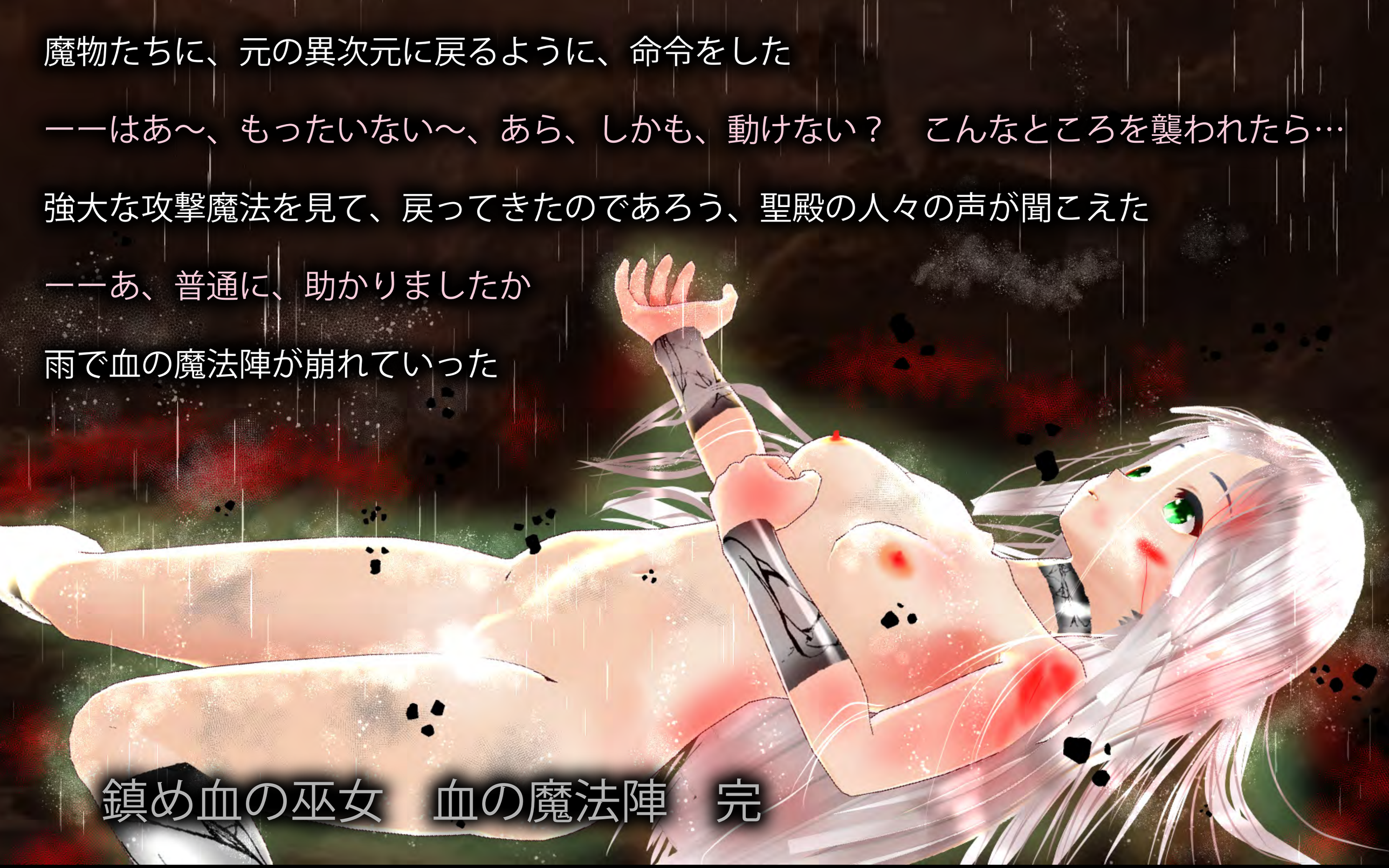
魔物たちに、元の異次元に戻るように、命令をした

ーーはあ〜、もったいない〜、あら、しかも、動けない？　こんなところを襲われたら…

強大な攻撃魔法を見て、戻ってきたのであろう、聖殿の人々の声が聞こえた

ーーあ、普通に、助かりましたか

雨で血の魔法陣が崩れていった



鎮め血の巫女　血の魔法陣　完

女武闘家　空で……

「見えた」

見習い神官が囚われたのは、高所の場所

「ここから、降りる。とまってくれ。あとは、予定通りに…」

さらに高所から、女武闘家は、強引に、飛び降りた

あまり近づいて、見習い神官を、救出する手段を、失うわけにはいかない

――間に合ったか？
見習い神官は、死の危機にあいやすい
魔力も弱く、仲間からも下に見られている
危機に会う理由が、人助けであるため、仲間の神官から、
バカにされながら……慕われていた

女武闘家は、とっさに、見習い神官を持ち上げ、後ろに大きく飛んだ

――…少し遅かったな

先ほどまで、見習い神官がいた場所が、えぐれた

高所に住まい、人を喰らうアヤカシに、襲われたのだ

――…だが…

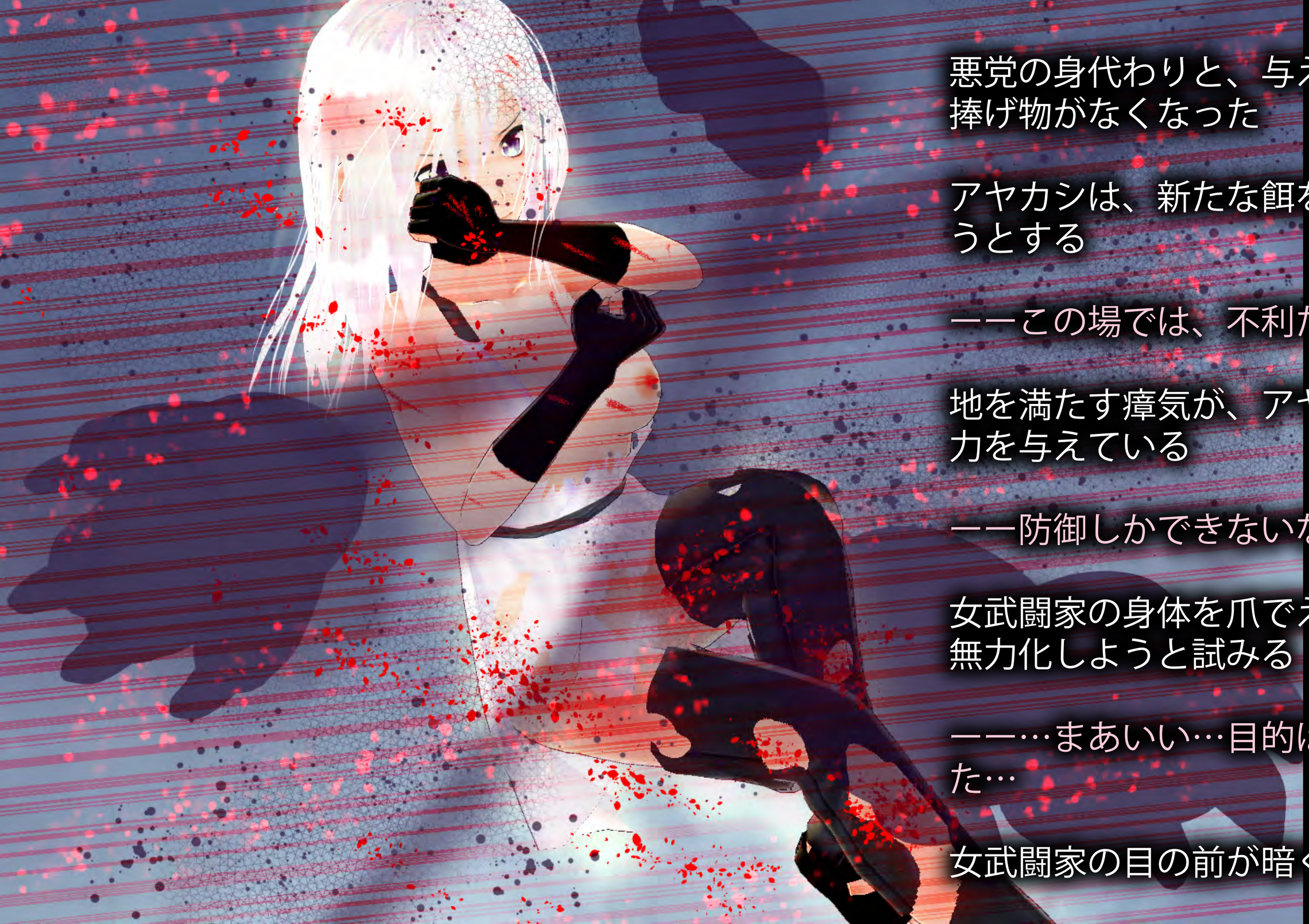
持ちながら、戒めの鎖をとく

「…ぁ…あなたは…」

――問題ない

「あなたは…あれ？　青い？　空？　落ちてるぎゃぁああぁーーーーーー！！！？」

女武闘家は、見習い神官を、高所から放り投げた



悪党の身代わりと、与えられた
捧げ物がなくなった

アヤカシは、新たな餌を、得よ
うとする

――この場では、不利だ

地を満たす瘴気が、アヤカシに
力を与えている

――防御しかできないな

女武闘家の身体を爪でえぐり、
無力化しようと試みる

――…まあいい…目的は果たし
た…

女武闘家の目の前が暗くなる

「っ！？」

直後、目の前が、まぶしい光に包まれた

「うぐぐぐ…えりゃあーー！！」

見習い神官が、女武闘家を自分の場所まで、転送したのだ

そこは、鳥型の使い魔の背中

依頼してきた神官たちには、アヤカシと対峙するには、力不足

その代わり、高所で救出する手段を、女武闘家に託した

ーーまずい！

「この使い魔は、一人用だ、すぐに降りるから…」

「どこにですかーー！？　じ、じっとして静かにしていれば、大丈夫です」

「……」

「バランス…癒し…バランス…癒し…使い魔さん、ががが、がんばって…」

使い魔は、一声鳴き、健気にも、重量オーバーに対応しつつ、慎重に下降していた

「それと一言！　落とす前に、ひとことぉっ」

「すまない、時間がなかった…回復魔法、感謝する…」

女武闘家　空で……　完

【製作サークル名】

ざこきゃら堂

https://www.dlsite.com/maniax/circle/profile/=/maker_id/RG48158.html

２０２１年夏発売